

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

財団法人かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2010年11月 No.5

今号の内容

- ◇ 講演会
福島県伊達市で開催
- ◇ 大学生招へいプログラム
夏の研修会
- ◇ 青少年交流事業
かめのり地球青少年サミット・ジャパン開催
中学生交流プログラム 韓国で実施
2010年度 助成事業
日本語・中国語教育
- ◇ 高校生交換留学プログラム
異文化体験の旅スタート
- ◇ 高校生短期交流プログラム
中国・韓国での体験

かめのり地球青少年サミット・ジャパン 開催



講演会

福島県伊達市で開催

王敏理事（法政大学教授）による講演会が9月に伊達市国際交流協会の主催で行われました。「なぜ異文化理解は必要か」と題した講演は、日本と中国の古代から行われてきた相互理解や交流について遣隋使や鑑真、餃子などの食文化や漢字など「ひと・もの・こと」から例を挙げ紹介。「文化の違いを知り、認め合い尊重することが重要。そしてお互いに刺激を受けることでそれぞれの文化や思考を活性化させることが異文化理解である。」とのメッセージが伝えられました。



著書を贈呈

大学生招へいプログラム

夏の研修会

大学院奨学生が研究の内容や進捗状況について発表し、奨学生同士の交流を深めることを目的とした研修会を8月に神奈川県箱根で行いました。発表では、日本語教育、福祉、法律と研究分野が異なるため、奨学生はお互いの内容に興味深く耳を傾けていました。それぞれ、指導教員のアドバイスを受けながら、より踏み込んだ調査を行い、熱心に取り組んでいます。また、9月で当財団の奨学金支給期間を終えた Seng Hun(センホン)さんは、引き続き名古屋大学大学院にて研究を進めていくとの報告がありました。



天候にも恵まれた研修会

かめのりコミュニティ

青少年交流事業

かめのり地球青少年サミット・ジャパン 開催

8月14日から湘南国際村センター(神奈川県)で行われた「かめのり地球青少年サミット・ジャパン」。将来のアジアのリーダーを育成するという趣旨のもと、2011年夏に開催予定のかめのり地球青少年サミット(The Kamenori Earth Youth Summit 以下KEYS)のプレ会議として、「人間の総合安全保障」をテーマに、白熱した議論や研究発表が繰り広げられました。3泊4日の合宿型のこのサミットには、ベトナム、中国、韓国のアジア3カ国からの留学生を含む13組計26名の大学生が集まりました。

今回のKEYSジャパンの特徴の一つは国籍、出身地、専門分野や年齢などの異なる様々な学生が集まったという点。交流ゲームやディスカッション、プログラムの合間のちょっとした会話などを通して交流していく中で、自分とは異なる経験を持つ人の意見や視点に刺激を受けることも多くありました。

まず初日は、アドバイザーである関西学院大学の戸考道教授から「人間の総合安全保障とは」と題した講義があり、参加者は事前に文献などを通して学んできた人間の安全保障という概念についての理解を深めました。続く「プレゼンテーションのスキルアップ」では、英語でのプレゼンテーションで、声の抑揚や言葉の選び方、プレゼンテーションの構成な

ど大勢の聴衆に自分のメッセージを伝えるためのポイントをMrs. Susanna K. A. MITOが非常にわかりやすくお話し下さいました。

この会議では、水戸教授による概念的なアプローチに始まり、他にも幾つかの異なる観点から研究テーマであった「人間の総合安全保障」について考えました。2日目に講演を下されたのはNPO法人JEN理事・事務局長の木山啓子氏。「人間の安全保障とJENの取り組み」というタイトルで、ご自身が携わる緊急支援の「現場」における人間の安全保障の意義を話して下さいました。同日夜に行われたベトナム戦争を題材とした映画『プラトーン』の鑑賞およびディスカッションでは、人間を極限状態にまで追い込む戦場で人間の安全保障の可能性を考えました。3日目の視察ではアジアの定住移民の多い「いちよう団地(神奈川県横浜市)」を訪れ、多文化まちづくり工房代表早川秀樹氏の話とベトナムからの移民であるハー氏と西山友美氏の体験談を伺いました。参加した学生は、身近なところに人間の安全保障が脅かされている人たちがいる現実を知り、その人たちを支える活動も目の当たりにしました。この視察を通じて人間の安全保障をめぐる現実と理想を認識し、状況や時代、対象に応じて価値の変わる人間の安全保障の概念の多義性・多面性を知るきっかけとなりました。

この会議の柱ともいべき研究発表では、各組がそれぞれ環境、エネルギー、教育、貧困問題など関心のある問題を選択し、人間の安全保障の概念とのつながりを踏まえて研究した成果を発表しました。論理展開から発表の仕方、質疑応答の内容に至るまで、非常にレベルの高い発表が多かったと思います。テーマの設定や発表資料にも工夫が凝らされており、参加者がかけてきた時間と熱意がおのずと伝わってきました。発表言語に関しては英語での発表に挑戦する組が多く、質疑も活発に行われるなど問題意識の高い参加者の積極的な姿勢が印象的でした。

参加者とスタッフから高く評価された早稲田大学の天沼・黄組と京都大学の栗林・遠藤組は来年の本会議への出場が決まりました。一年を経てさらに成長した代表4名の活躍が楽しみです。

企画者としても、グローバル化する世界において、各地域で協力が求められる21世紀に、隣国に住む者としてアジアの学生が共通のテーマについて考え、意見を交わす重要性を強く感じました。また、母国へ日本での学びを持ち帰る留学生が参加し、異なる視点をもって貢献してくれた意義を実感できたのもこの会議の成果といえます。

KEYSジャパンの参加者にはこの出会いと経験を自分たちの糧として更に世界を広げ、アジアの未来を担うべく意識を高く持ち今後も研究や活動を続けていってほしいと願います。この経験が、アジアの仲間を増やし、日本をアジアという枠組みの中でとらえるきっかけとなったのであれば幸いです。

報告：KEYSジャパン 学生スタッフ 島山澄子



1	4
2	3
	5
	6

- 1 / KEYSジャパンの参加者
- 2 / いちよう団地内のお店
外国語の看板と見慣れぬ商品に興味津津
- 3 / 視察先のいちよう団地にて
- 4 / 研究発表の準備
- 5 / グループに分かれて真剣に議論
- 6 / 水戸教授と天沼・黄組

中学生交流プログラム 韓国で実施

日本の中学生にぜひアジアに対する興味を持ってもらおうと昨年度より始まった中学生交流プログラム。10月4日から1週間、(社)国際フレンドシップ協会(IFA)の実施により、全国から集まった8名の中学生が参加しました。

前日の10月3日、初めて顔を合わせた8名が山本伸団長と東京都内のホテルで結団式を行いました。山本団長から「韓国の中学生と交流する前に、団のみんなが仲良く協力し友達になること」、そして「3つの管理(自己管理、健康管理、危機管理)」のお話があった後、参加者は出発オリエンテーションを受けました。国際交流基金職員の申熙晶さんから、現地ですぐ自己紹介がハングルでできるよう、自分の趣味や特技をいれながらサバイバル・ハングルを練習しました。「韓国ではお茶碗を持って食べると失礼」というような韓国の生

活習慣についての説明を受け、その他渡航に必要なマナー、海外事情を学び、夜遅くまでみんなで日本文化紹介の練習をしました。

10月4日、羽田空港からソウル金浦空港に向け出発。中学生たちは全員韓国への訪問が初めてで、ワクワクする気持ちとともに、緊張と不安が入り交ざった面持ちでした。ソウルタワーからソウルの街を眺め、石焼ビビンバや韓国のお惣菜を楽しみ、景福宮で韓国の歴史を学び、南大門市場では活気ある商店街の中をグループになって買い物をするなど、韓国での初体験を楽しみました。

10月5日は現地の中学生との交流で、ソウル市内にある中浪中学校を訪問。校門で在校生から「こんにちは」と声をかけられ、みなスターのような歓迎を受けました。まず校長先生からのご挨拶の後、英語、体育の授業への参加、給食、その夜のホームステイのパートナーとの対面があり、片言のハングル・英語

そして日本語と、ジェスチャーを交えながら笑顔でコミュニケーション。最後に150人ほどの先生や生徒の前で「ふるさと」の合唱、剣道の「型」、琉球舞踊、津軽三味線、そして会場全員での「幸せなら手をたたこう」の合唱など、練習のかがあってすべてのパフォーマンスが大好評でした。その夜、少し言葉の不安はあるものの元気にそれぞれのパートナーとともにホームステイ先に行き、初の韓国の生活を肌で体験しました。

その後、韓国国会議事堂見学、檀国大学校での交流、ロッテワールドでのパートナーとの最後の交流など、さまざまな体験をし、韓国で友情をはぐくみ、10月10日に無事帰国し、解団式を行いました。(社)国際フレンドシップ協会の及川伊佐子部長から、この体験を「周りの人に伝えること」と「いつまでも覚えておくこと」というメッセージをいただきました。このプログラムを通して、日本と韓国の違いに気づき、言葉はわからなくとも、笑顔で心の交流をすることがお互いの理解につながることを参加者は体得したと願っています。来年度以降も「アジアとの交流のきっかけ作り」となるこの事業を継続したいと考えます。

報告：(財)かめのり財団 理事・事務局長 西田浩子



ロッテワールドでの交流



折り紙を披露

2010年度助成事業

本年度の助成事業が右の通り決定しました。7月に交付式およびIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人氏による助成金を受けるにあたってのワークショップを行いました。



助成事業

(財)日本国際連合協会
第一回日中韓模擬国連会議日本開催事業

日中青年会議委員会
日中青年会議 2010

(特)産学連携教育日本フォーラム
外国人留学生による日本の魅力再発見懸賞エッセイ事業

ホランの会
モンゴルの日本語学習生短期通学のための招へい事業

(財)日本タイ協会
タイで日本語を学ぶタイ人学生への日本語学習教材寄贈事業

STeLA 日本支部
STeLA リーダーシップフォーラム 2010

Global Model UN 日本代表派遣プログラム
Global Model UN 日本代表派遣プログラム



本場の石焼ビビンバをいただきました

日本語・中国語教育

日本とアジア・オセアニア諸国における言語教育の促進を目的とした事業を支援しています。

本年度は次の事業に助成しました。

(財)国際文化フォーラム
2010年高等学校韓国語・中国語教師研修
第二外国語としての日本語教育推進プロジェクト

高校生交換留学プログラム

異文化体験の旅スタート

8月にインドネシアと中国へ向けて派遣生3名が出発し、またインドから2名の受入生が来日しました。「日本では学ぶ機会の少ないインドネシア語をしっかり習得したい。」「中国は広く、地域によって、食や言葉が違うのでとても興味がある。」「インドとは全く異なる日本の文化を知る素晴らしい機会にしたい。」などそれぞれの思いを胸に、異文化体験の扉を開けました。言葉の壁や困難にぶつかりながらも、学校でたくさんの友だちを作り、ホストファミリーとの生活を楽しくしています。



左/派遣生出発前懇談会にて 右/インドからの受入生

高校生短期交流プログラム

中国・韓国での体験

7月から8月にかけて、中国、韓国へそれぞれ5名の高校生が訪問。ホストファミリーと生活を共にしながら、言葉や文化を学び、滞在地域の人々との交流を通じて、異文化への理解を深めました。中国では、北京と上海という大都市に滞在し、街で出会う人々のパワーを肌で感じ刺激を受け、他の国からの留学生とも仲良くなりました。韓国では、最後の1週間、通学した高校で



大歓迎を受け、日本についての質問が次々と飛び交いました。最終日には、サプライズパーティーを開いてくれ、涙、涙のお別れでした。

帰国後は、「この夏休みは人生で一番有意義な時間となった。」「(今後の日本とアジアの関係について)お互いが相手国を実際に訪ね、その国の本当の姿を自分の目で確かめることが必要なのではないかと思う。」

などの感想が寄せられ、素晴らしい人々との出会いやさまざまな体験を通じ、多くの発見をした1ヶ月となりました。

上/中国への派遣生
下/韓国の民族衣装を着て

奨学生のこぼ

体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

日中関係に何よりも必要なことはお互いを知ることだと感じました。こんなに近い国なのに知らないことが多すぎました。私たちはどうしても自分の日常を当り前のことだと思ってしまいます。でもその考えを180度かえて知ろうとしなければ誤解をうんだままのことがたくさんあると思います。今後、今回の自分の体験を周りの人に伝えていこうと思います。

2010年 中国へ留学(短期) 中田 柚香

1年間の留学で日本の言葉や文化だけでなく自分の中でも成長できました。たまに韓国と日本の違うことについて笑ったり、ショックを受けました。違う文化について相手の立場になってみるのが大事だと思いました。違うことには必ず理由があります。その理由を知って相手を理解することが一番大切なことだと思います。

2009年 韓国から留学 Ms.SaeRomi Shin

今後の予定

- 12月 第4回かめのり賞 選考結果発表
- 2011年
- 1月 かめのりフォーラム2011 (第4回かめのり賞表彰式) 開催
- 2月 【長期】第4期生受入生帰国
【短期】第3期生 中国・韓国から来日
第1回アジア文化セミナー開催
- 「生活と芸術に見る韓国文化と日本文化の相違」

<< 編集後記 >>

8月に開催した「かめのり地球青少年サミット・ジャパン」では、26名の大学生が一堂に集まり、4日間、共に考え、意見を共有したことで、異なる大学で学ぶ参加者同士の絆が深まりました。「参加して本当によかった。皆と会えたことも大きな収穫だった」との感想に、事務局スタッフとして非常に嬉しく感じました。今年の夏も「かめのりコミュニティ」にたくさんの仲間が加わり、輪が広がりました。(菊地)

発行人 / 西田 浩子
編集 / 菊地 佐智子
デザイン / イワフチサトシ (BUTI design)
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/